

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	生野区
学 校 名	巽南小学校
学校長名	谷野 智史

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・巽南小学校では、第6学年 63名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率については、国語科は60%で、大阪市の66%よりも6ポイント低かった。算数科は51%で、大阪市の62%よりも11ポイント低かった。

平均無答率については、国語科は6.2%で、大阪市の3.3%よりも2.9ポイント高かった。算数科は5.2%で、大阪市の3.2%よりも2ポイント低かった。

正答率については、両教科共に、短答式問題において正答率が低い傾向がみられた。また、記述式問題の正答率が算数科で低かった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

「知識及び理解」について、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の全項目については平均正答率が大阪府平均・全国平均を下回り、課題がみられた。

「思考・判断・表現」については、「書くこと」の項目において、平均正答率が大阪府平均と同じであった。「話すこと・聞くこと」「読むこと」については大阪府の平均正答率を下回った。

〔算数〕

「数と計算」「図形」「測定」「データの活用」の全項目において、平均正答率が大阪府平均・全国平均を下回った。

特に「数と計算」の項目については、大阪市平均を14.5ポイント下回っており、今後の課題だといえる。

質問調査より

「学校に行くのは楽しいと思う」の質問において、大阪市平均・全国平均を大きく上回った。特に、「当てはまる」と答えた児童が多く、みんな学校に来ることを楽しみにしており、意欲的に学習に取り組んでいる様子が見られる。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問については、全児童が肯定的に回答しており、日ごろのいじめは絶対にいけないという指導が浸透している様子が見られる。

しかし、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問において、学校は取り組んでいると考えているが、児童の回答は、大阪市平均・全国平均を下回った。学校側の取り組みが、児童に成果や実感として伝わっていない現状があることから、各教科を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする活動を充実させていく必要があると考える。

今後の取組(アクションプラン)

・3年生以上で教科担任制を導入し、個に応じた支援を積極的に進め、よりきめ細かな指導を推進していく。5年生では算数科で若手教員と指導教諭による2名体制でのチームティーチングを展開し、児童へのきめ細やかな指導を実施する。

・基礎的、基本的な知識や技能を確実に身に付けることができるように、デジタルドリルや学習教材データ配信を活用して個に応じた指導をさらに推進していく。

・各サポーターの活用を通じて、学力の基礎・基本となる知識を身に付けられるようにする。

・1人1台端末やデジタル教科書、ICT機器やデジタルコンテンツ等を積極的に活用して、児童が互いの意見を交流し、学習により主体的に取り組むことができるような授業を展開する。

・学力の基礎・基本となる「読み取る力」の育成を図るために、児童が読み取ったことを整理し、それを基に意味や根拠を加えながら筋道を立てて記述したり、説明したりする力を育む。

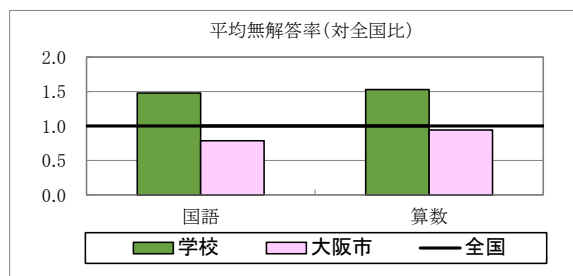
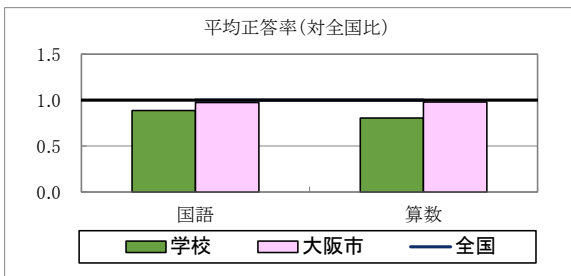
【 全体の概要 】

平均正答率（％）

	国語	算数
学校	60	51
大阪市	66	62
全国	67.7	63.4

平均無解答率（％）

	国語	算数
学校	6.2	5.2
大阪市	3.3	3.2
全国	4.2	3.4



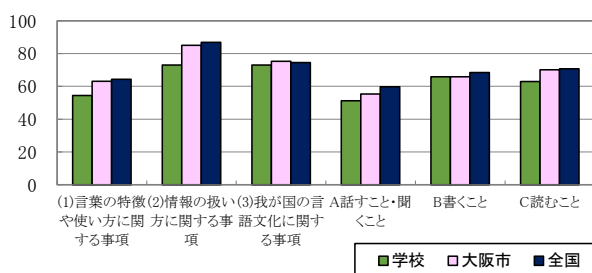
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	4	54.4	63.1	64.4
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	73.0	85.0	86.9
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	73.0	75.3	74.6
A 話すこと・聞くこと	3	51.3	55.3	59.8
B 書くこと	2	65.9	65.9	68.4
C 読むこと	3	63.0	70.1	70.7

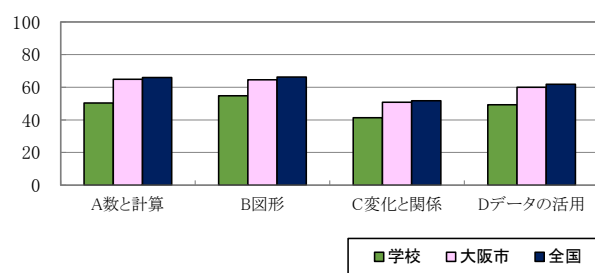
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	50.3	64.8	66.0
B 図形	4	54.8	64.6	66.3
C 測定	0			
C 変化と関係	3	41.3	50.8	51.7
D データの活用	4	49.2	60.0	61.8

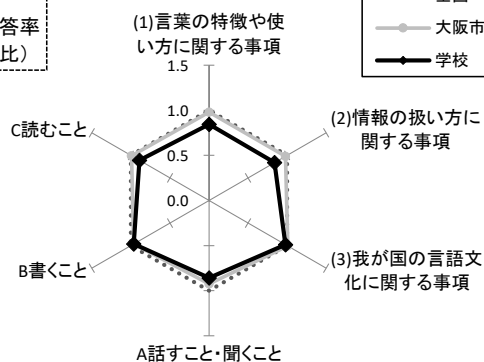
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



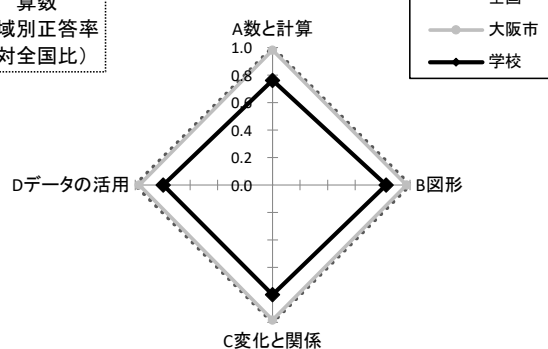
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)



算数
領域別正答率
(対全国比)



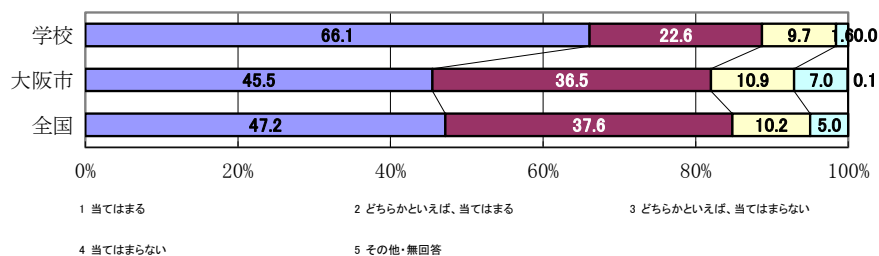
児童質問より

質問番号

質問事項

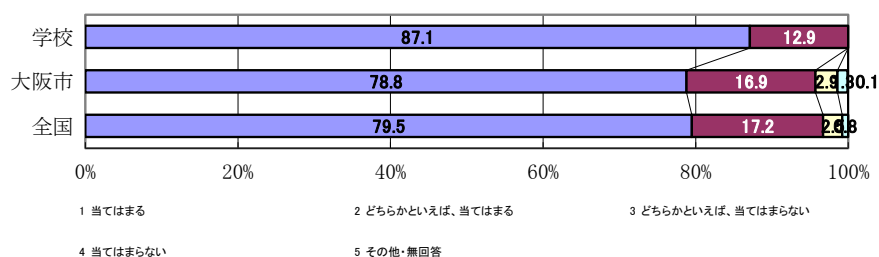
16

学校に行くのは楽しいと思いますか



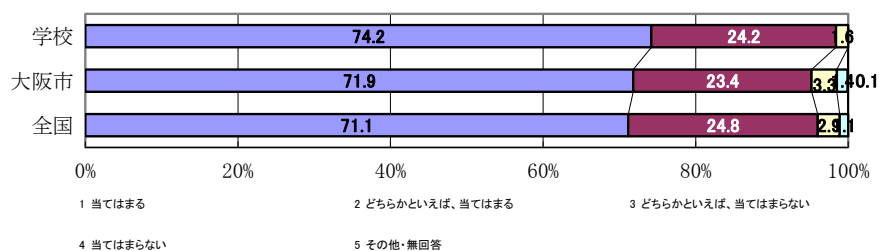
13

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



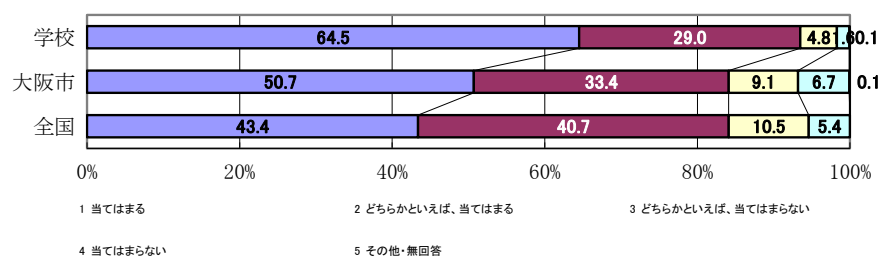
15

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



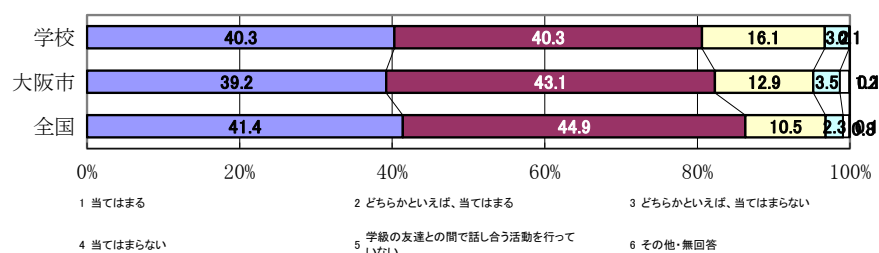
9

自分には、よいところがあると思いますか



33

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



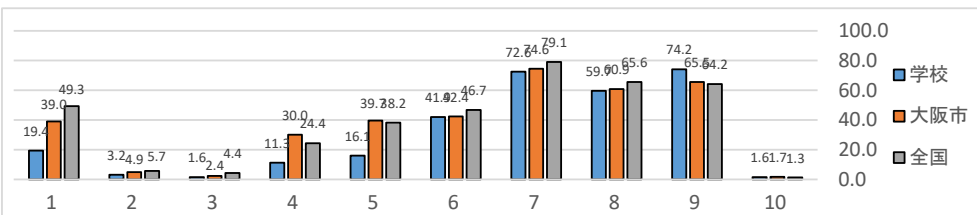
児童質問より(26)

質問番号

質問事項

26

放課後や週末に何をして
過ごすことが多いですか
(複数選択)



1 家で勉強や読書をしている

2 放課後子供教室や放課後児童クラブ(学童保育)に参加している

地域の活動に参加している(地域学校協働本部や地域住民などによる学習・体験プログラムを含む)

4 学習塾など学校や家以外の場所で勉強している

5 習い事(スポーツに関する習い事を除く)をしている

6 スポーツ(スポーツに関する習い事を含む)をしている

7 家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている

8 家族と過ごしている

9 友達と遊んでいる

10 1～9に当てはまるものがない

学校質問より

質問番号

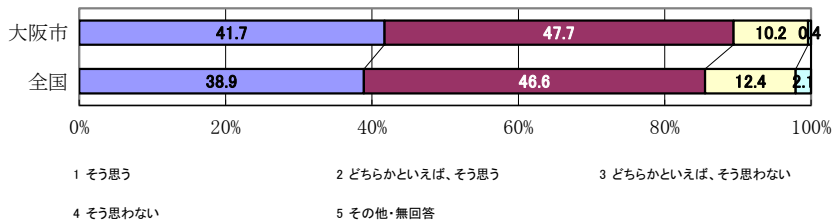
質問事項

7

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか



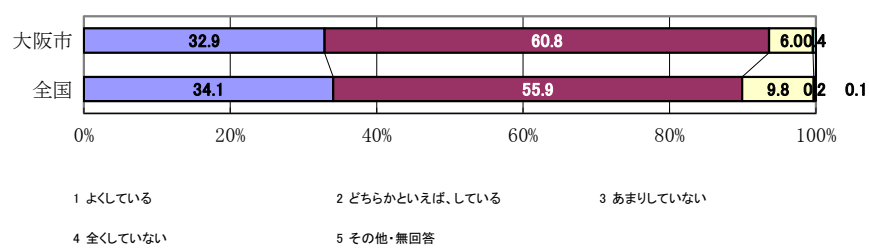
学校 「そう思う」を選択



17

児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか

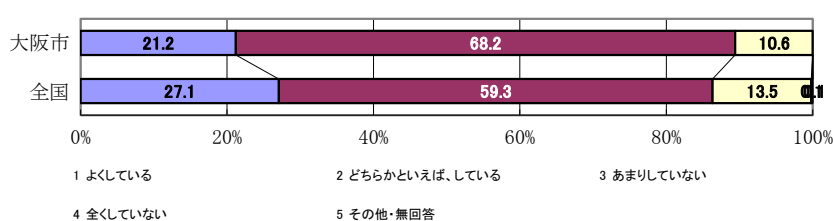
学校 「よくしている」を選択



18

個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか(オンラインでの参加を含む)

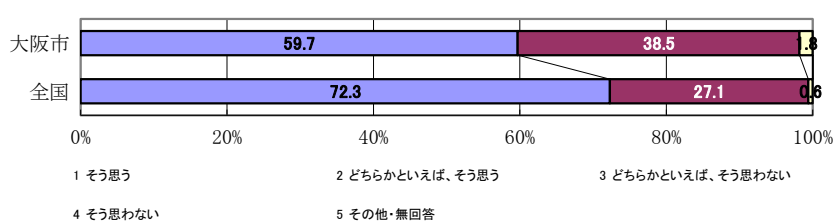
学校 「よくしている」を選択



23

教職員が困っているとき、互いに相談できる雰囲気があると思いますか

学校 「そう思う」を選択



25

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

学校 「そう思う」を選択

